

かぞくしんくろ

第37話 みちきしん

「な〜」

「ん〜」

「最近書くなってきたな〜」

「そうだなー、もう30の大口ってところか〜」

「なかなかタタミンのすっぴん流れ込さべ〜め〜」

「アし俺たちには効かないらしいせ」

「あ〜ん〜」

「まあ効こうが効くまいが免疫細胞に取って食われるんだろ〜うけどな〜」

「あ〜いはやっぴの自爆特攻をくらうかな〜」

「あ〜いらも必死だよな〜」

「あ、抗体の準備できたっばいよ」

「え、思ったより早かったな。あ〜あ、これで俺たちも終わりが〜」

「生まれ変わったら何になりて〜っ」

「別に風邪ウィルスでもいいかな〜」

「でも鼻毛に引っかかかって一生終わるのだけはイヤだよな〜」

「あ〜ん〜」

民降る夜、蓬萊の薬

▽新聞(二十四日)の切り抜き

“ 進化の果てにあるものは自壊である ”

『集団自殺？ 同地区から自殺者続出』

▽部屋のなかからの少女の声

何だろう、この気持は、この感覚は。

天が泣き、地が呻くのがわかる。

僻地の子供のひもじさ、都会人の憂鬱がわかる。

自分のキヤバンティを超える程の悲しみ。

ああ、風になりたい。この星の静かで大きな

叫びを吹き飛ばすような一陣の風に……

でも、私に出来ることって何にも……無い。

私に出来ることは何にもないっ！

私はこんなに無力な自分に耐えられないっ！

悲しすぎて涙が止まらないっ！

はあっ、はあっ………ん？ ちよつと待つて……

あはは、そうか、何でこんな簡単なことに……

▽同時刻・階下

娘に風邪薬を飲ませ、母は安心してテレビを覗ながらお茶を飲んでた。医者に特効薬と言われて渡されたのだから安心して当たり前である。しかし次の瞬間、金切り声とドタドタと階段を駆け下りる音が聞こえた。

何事かと思ひ階段の方へ足を向けると、さっきまで天使のような寝顔ですやすやと寝息を立てていた娘が靴を履いて出て行くこととする背中が見えた。

「どこへ行くつもりなの！」 「きえに行くの。」

叫ぶ母に向けた少女の顔は笑みに包まれていた。その笑顔は天使というよりも妖魔のそれだった。

2分後、少女は自宅近くの高速道路に架かった歩道橋から身を投げ、投身自殺を遂げた。

二十三日未明、全国で100件以上の自殺が報告された。警察の調べによると、自殺者全員が同じ病院で風邪の診察を受けていることが判明しているが、処方された薬は副作用のほとんど無いものであることが確認されており、警察は薬物の副作用の線は薄いと見て、集団自殺の可能性も含めて早急に対策する模様だ。

▽くだらない真実

今回のこの事件ではこの少女の他にも百人以上が亡くなっているわけだが、普通に考えてこのようなことは考えられない。確かにゲートの『若きウェルテルの悩み』によるヨーロッパの自殺流行のようなものもあったが、少女がヒロインのシャルロッテのようなカリスマ性を持つているわけではないし、実際の自殺者同士のつながりというのは自殺を示し合わせるような関係ではなかった。つまり、ウェルテル効果の線は元々ない。

つまり、薬に問題があったのである。少女が飲んだ風邪の特効薬は実はそんな生易しいものではなかった。

蓬萊の薬と呼ばれる一種の進化促進剤であった。少女の超感覚はそこに由来する。しかし、進化というものが人間を明るく照らすとは限らない。進化することにより自分の立場をより明確に知覚できるのだ。それだけに自己の無力さに気づき消滅を選ぶ可能性の方が遥かに高い。進化の行き着く先は自壊なのだ。

医学の世界の隠蔽体質は根深いが、こんな非合法な薬を無差別に実験しているというのが真実である。だが、これが人類を進展させてきたのもまた真実なのだ。だって、失敗は成功の母なのだから。

余談だが、この薬は「フジの薬」とも呼ばれている。帝の求婚を断った月の姫が置いていき、後に富士山と呼ばれる不死の山で灰となった蓬萊の薬。不死の薬は人間に永遠の生という苦痛を与え得る「不治の薬」でもあるという皮肉であらう。

さて、次は何が起こるのだろうか……？

あなたの薬がそれかもしれない

何が起こるかわからない、使ってみるまで蓬萊の薬

「かぜ」本選作品講評

青数字が獲得ポイント数です。

1 〔青い風の楽園〕 6位 37.2

風に色を着けて地球サイズにしたら、広がりのあるポエムになりました。

さわやかに今週の表紙作品。

ひとつだけ注文。「美しい」というナマな表現は避けたほうがよいか、と思います。「美しい」と言わずに美しさを感じさせるのが詩人さんのウデの見せどころでしょう。

2 H5NI パンデミック タミラル 6位 37.2

出たな、ウンチクコラムニストさん（弟子）。

ていねいな説明のおかげでウンチクは増えたけれど、ちょっと読みにくくて苦労しました。

はじめにパンデミックの定義をきっちりと。それだけで、ずいぶん違うと思います。

3 ドクター喜多川の『病院へ行こう！』 第三回テーマ『かぜ』 3位 ルル11錠

出たな、作風カメレオン。

ねぎとだいこんが、すてきに笑えて、そのあとのマジメパートが蛇足だったか。

でも、飄々とした語り口、いい味わいです。これだけ作風を変えて、でも着実にベスト3に食い込んでくるところが凄いなあ。

4 風に吹かれて 9位 37.1

このあたりで、さわやか編。

少しずつでも前へ前へ。ひたすらな気持ちが伝わってきます。少し風景も見せていただけると、より入り込めたか。

イチオシフレーズ：「弱気を封殺して」

5 無題～「おまいら、良く聞け！」 9位 37.1

血液の中の戦い。このアイディアを思いつかれた方も多かったのですが、外気温で表現したところがユニークでした。

ラスト、もう読者には分かっているので、そう「熱」「熱」と連呼しなくても。

イチオシフレーズ：「イエッサー！」

6 第四回 綾田賞ノミネート作品 忘却 4位 38.4

白血病の少女なんて、そんなベタな・・・
悲しさをしっかり感じさせるには、もっと舞の個性を見せたかった。

なお1行目は明らかに王国規定違反ですので、以後ご用心。
それにしても、たったひとことの「アメリカ」に話題集中、という予想外の展開になってしまいましたね。
イチオシフレーズ：「第四回 綾田賞ノミネート作品」「俺がアメリカへ飛び立つ前の日」

7 Don't Leave Me Alone,please 5位 38.3

こちらも何だかネタにされてしまいましたけれど・・・
語らない死者/もがく生者。この世のさだめをくっきり映し出して、置いてゆかれた僕たちはどうすれば？ という答えのない問いが夜の屋上に空しくこだまして。

緻密に状況を立ち上げることで、問いかけが刺さってくる。
真剣な問題提起作品と読みました。
イチオシフレーズ：「顔は形が.....脳が飛散していた」

8 風で俺のパンツが飛ばされた 1位 パンツ19枚

重い話題のあと、ちょっとリラックス。綾田ショータイムです。

童謡のような、とぼけた語り口。くまさんブリーフでなごんでいただければ幸い。

それにしても強い強い。これだけの強豪がつどうなか、2連覇達成です。**おめでとう!!**

イチオシフレーズ：「それを誤って一緒に、すべてシュレッターにかけてしまった」「くまさんの刺繍入りブリーフ」×2
で、イチオシフレーズ大賞もさらってゆきました。

9 神風 2位 バファリンの15%

今回、神風特攻作品はいくつもあったけれど、これはほんとにすばらしかった。

交錯する運命、煙草など小道具もていねいに揃え、上下で鮮やかに見せて、レイアウトに助けられつつ、シリアスな光景がぐっと迫ってきます。

「硫黄島へのオマージュ」ですか、なるほど。

10 Anyway The Wind Blows... 6位 37.2

ラストはさらり、やさしい言葉で。
風になった僕。映画のエンディングのような静謐な印象でした。

ひょっとしたら7番作品へのアンサーソング？

惜しい1 かぜきんくん

タイトル、フォントの勝利ですね。

生き延びなきゃ、という必死感がなくて、のんびり生まれ変わり会話が脱力系のいい味わいでした。

さいごの「まったく」が強すぎませんか？ 「だよな～」のほうがよいのでは。

惜しい2 民降る夜、蓬菜の薬

哲学的な深みを持つ設定をみごとにおさめきって秀逸でした。

タイトル、小見出し、薬の名前と、ひとつひとつウィットが効いていて、おもしろうてやがてこわい。。。

祝 今週の受賞作品

班名	賞タイトル	作品番号
APEC	lg綾田賞	6
Blow!!	おまい、ヲタクで賞	5
CCガールズ	美しいで賞	10
D	今週の疾病症	5
kazE	第3回東工大模試E判定	6
F=ma	BL賞	7
G	ぶえっく賞	3
H5N1	大妖怪綾田賞	2
Iga x 2	飛行機を間違えるのもいいかげんにしろよ賞	6
K-1	全員男にしま賞	7